

「いわき市に避難している浪江町民の健康調査支援事業」では、避難住民の健康調査を行う「健康見守り調査活動」があります。この活動にあたってきた浪江町・福島県相双保健福祉事務所・ふくしま心のケアセンターの皆さんに、これまでの活動についてお話を伺いました。

場所： 日赤なみえ保健室(福島県いわき市)

開催日： 2017年3月14日

- 浪江町の役場は二本松市に移転したので、町の保健師は遠方で頻繁に来られない。社会福祉協議会も二本松市にあるので、いわき市の被災者の訪問ができていなかった。そのような中で日赤が健康見守り調査活動をやっていただけて大変ありがたい。(浪江町)
- 日赤と一緒に訪問する回数を重ねることで、少しずつ話していただけるようになった。(心のケアセンター)
- 日赤・浪江町・相双保健福祉事務所・心のケアセンターで協力して活動し、被災者の情報を共有することで、専門家たちによる様々な視点から判断することができ、また支援を共同で行ったり逆に分担したりなど、有効に機能している。今後も継続した支援が必要であり、協力関係を継続できるとありがたい。(全員)
- 小さい子どものいる家庭、働き盛りの世代がいる家庭は、いわきに生活拠点を築いた方も多く、なかなか帰ることが難しい。避難指示が解除されても、商店・病院・学校・幼稚園などの再開には時間がかかる。(相双保健福祉事務所)
- 復興公営住宅も次々に建設されてきたこと、さらには県外に一旦避難した方など新たに違う地域からいわき市に移動してくる人も多い。(浪江町)